吉田五十八は、昭和初期から中期にかけて活躍し、日本の伝統建築の美に着目し、新興数寄屋と呼ばれる新しいスタイルを築いた建築家。前歌舞伎座復興、五島美術館、吉田茂邸、岸信介邸など数々の歴史的な建造物を残しました。その彼が長く暮らした家が二宮に残されています。

第二次世界大戦中の疎開先として二宮の地を選びました。戦時中だったので、住宅は15坪と規制され、こじんまりとした建物でしたが、

この自邸は彼のデザインの本質である簡潔な造形のなかに，日本的な美しさを求めようとする建築思想をきわめてよく表現したもので、日本の近代住宅建築史の中でも貴重な建築。世界の20世紀名作住宅に挙げられる建築です。また、表門から玄関前庭と座敷から続く南の主庭の巧みな大和絵のような空間は，芝庭に日本庭園の構成を込めた和洋折衷的な試みを示したもので、自邸と一体をなす庭園として貴重なものです。

未来に伝えたい写真展